

令和4年上半期における刑法犯認知・検挙状況について【暫定値】

1 刑法犯認知・検挙状況

	R4.6末	R3.6末	増減数	増減率(%)
認知件数	275,033	277,112	-2,079	-0.8
検挙件数	119,545	128,853	-9,308	-7.2
検挙人員	80,849	84,964	-4,115	-4.8
検挙率(%)	43.5	46.5	-3.0ポイント	

2 主な特徴点（別紙参照）

(1) 認知状況

○ 令和4年上半期における刑法犯認知件数は27万5,033件で、年間の認知件数が戦後最少であった令和3年（56万8,104件）の上半期（27万7,112件）を更に下回った（前年同期比で0.8%減少。）。他方、重要犯罪の認知件数は前年同期比で3.4%の増加となった。

○ 刑法犯認知件数のうち、街頭犯罪の認知件数は前年同期比で3.0%増加した。一方、侵入犯罪の認知件数は前年同期比で7.7%減少した。

包括罪種別に見ると、刑法犯認知件数の約7割を占める窃盗犯の認知件数は、前年同期比で0.5%の減少となった（このうち、重要窃盗犯（注）の認知件数は前年同期比で5.1%減少。）。

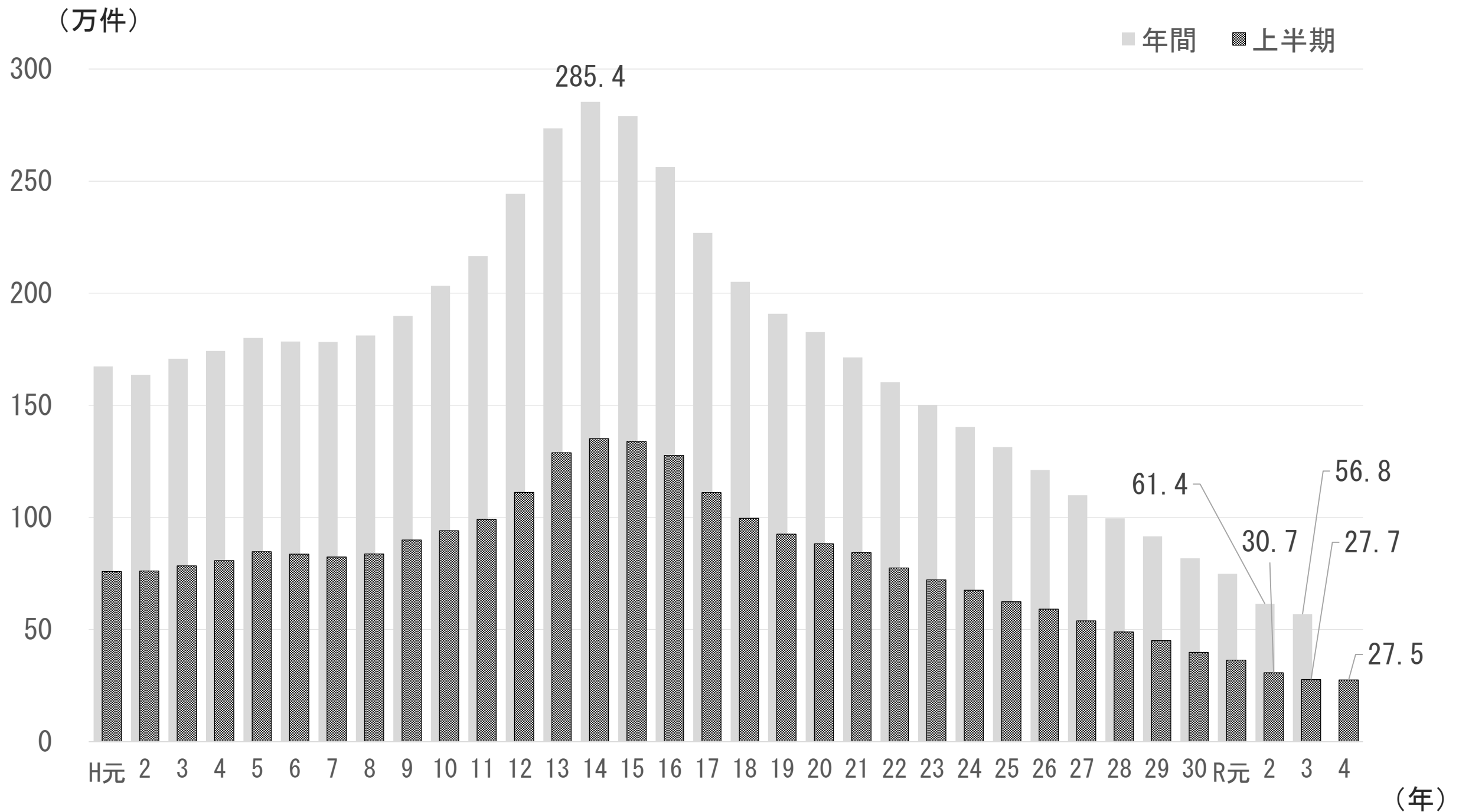
注 侵入盗、自動車盗、ひったくり及びすり

(2) 検挙状況

○ 令和4年上半期における刑法犯の検挙率は43.5%、重要犯罪の検挙率は85.0%、重要窃盗犯の検挙率は61.4%であった。

○ 刑法犯、重要犯罪及び重要窃盗犯の検挙率はいずれも平成10年代半ば以降上昇傾向にあるが、本年上半期は前年同期比でいずれも下落している。

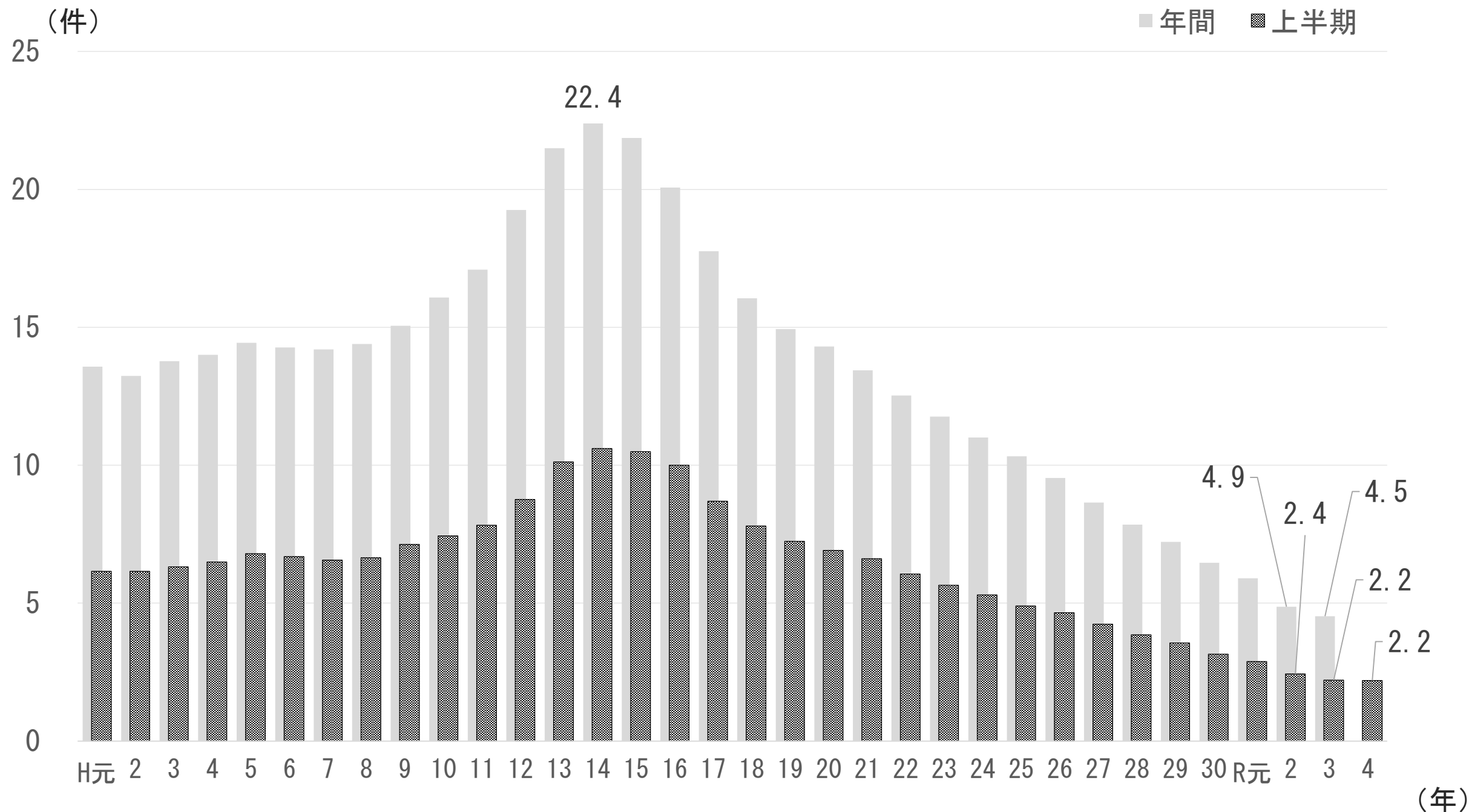
※ 令和4年上半期の数値は暫定値。以下同じ。



令和4年上半期における刑法犯認知件数は27万5,033件で、戦後最少であった令和3年(年間56万8,104件)の上半期(27万7,112件)を更に下回った(前年同期比で0.8%減少。)

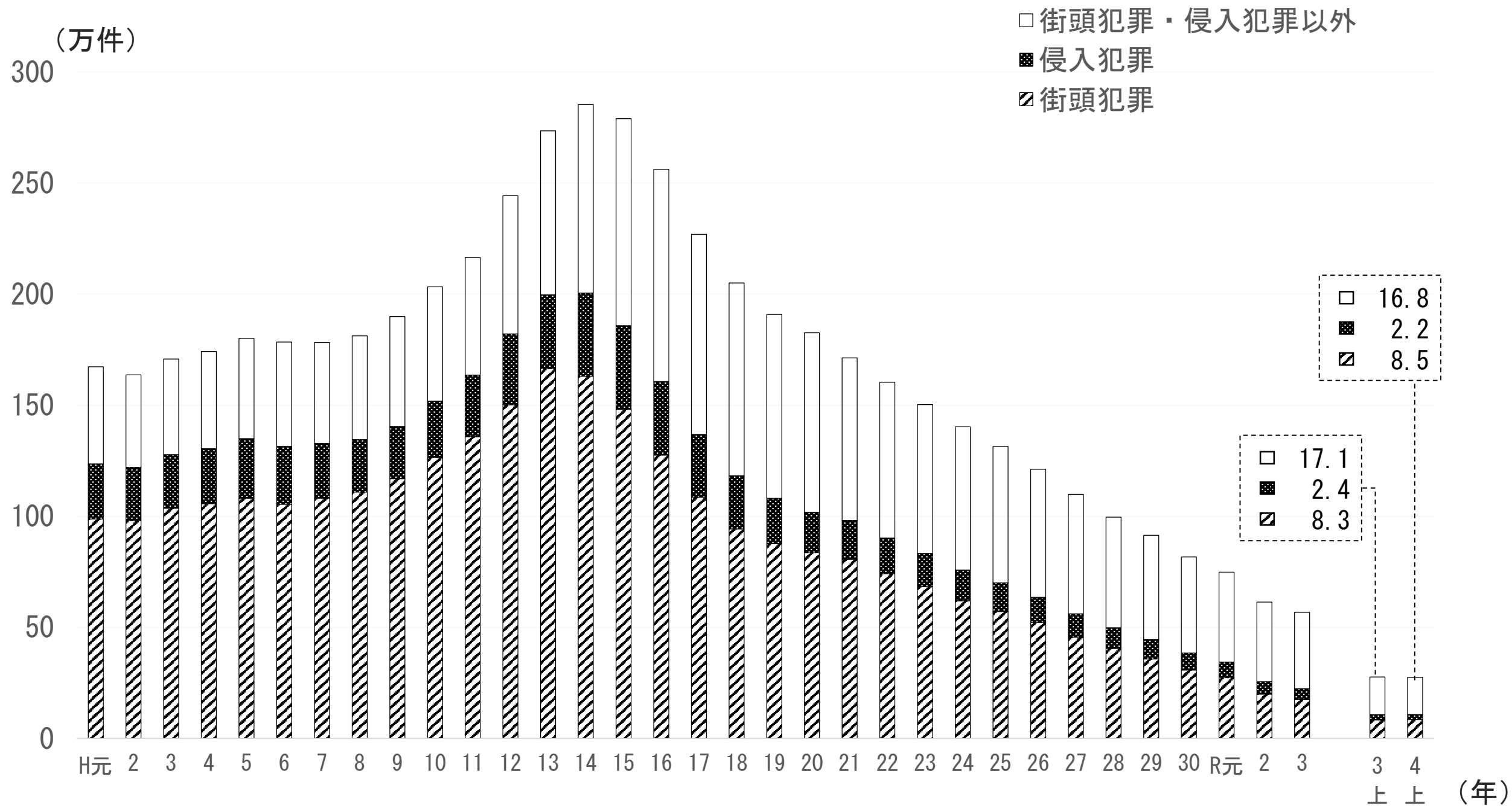
人口千人当たりの刑法犯の認知件数の推移

※ 人口は、総務省人口推計又は国勢調査人口による各年10月1日現在の総人口。
ただし、令和4年上半期は令和3年の人口。

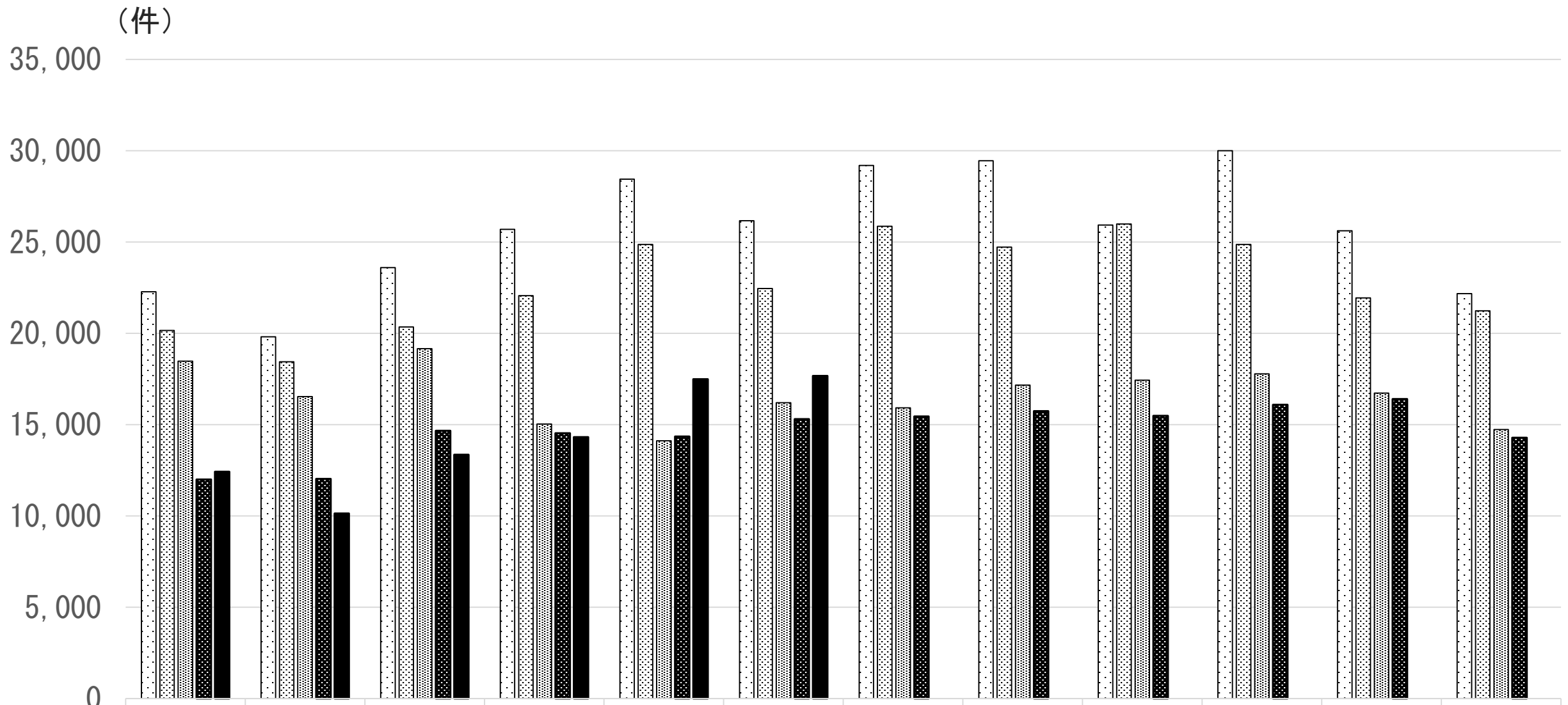


令和4年上半期における人口千人当たりの刑法犯の認知件数は2.2件となり、令和3年(年間4.5件)の上半期(2.2件)から横ばいであった。

街頭犯罪・侵入犯罪の認知件数の推移



令和4年上半期における街頭犯罪の認知件数は8万5,382件となり、前年同期比で3.0%増加した(侵入犯罪の認知件数は2万1,714件となり、前年同期比で7.7%減少、街頭犯罪及び侵入犯罪以外の認知件数は16万7,937件となり、前年同期比で1.6%減少した。)



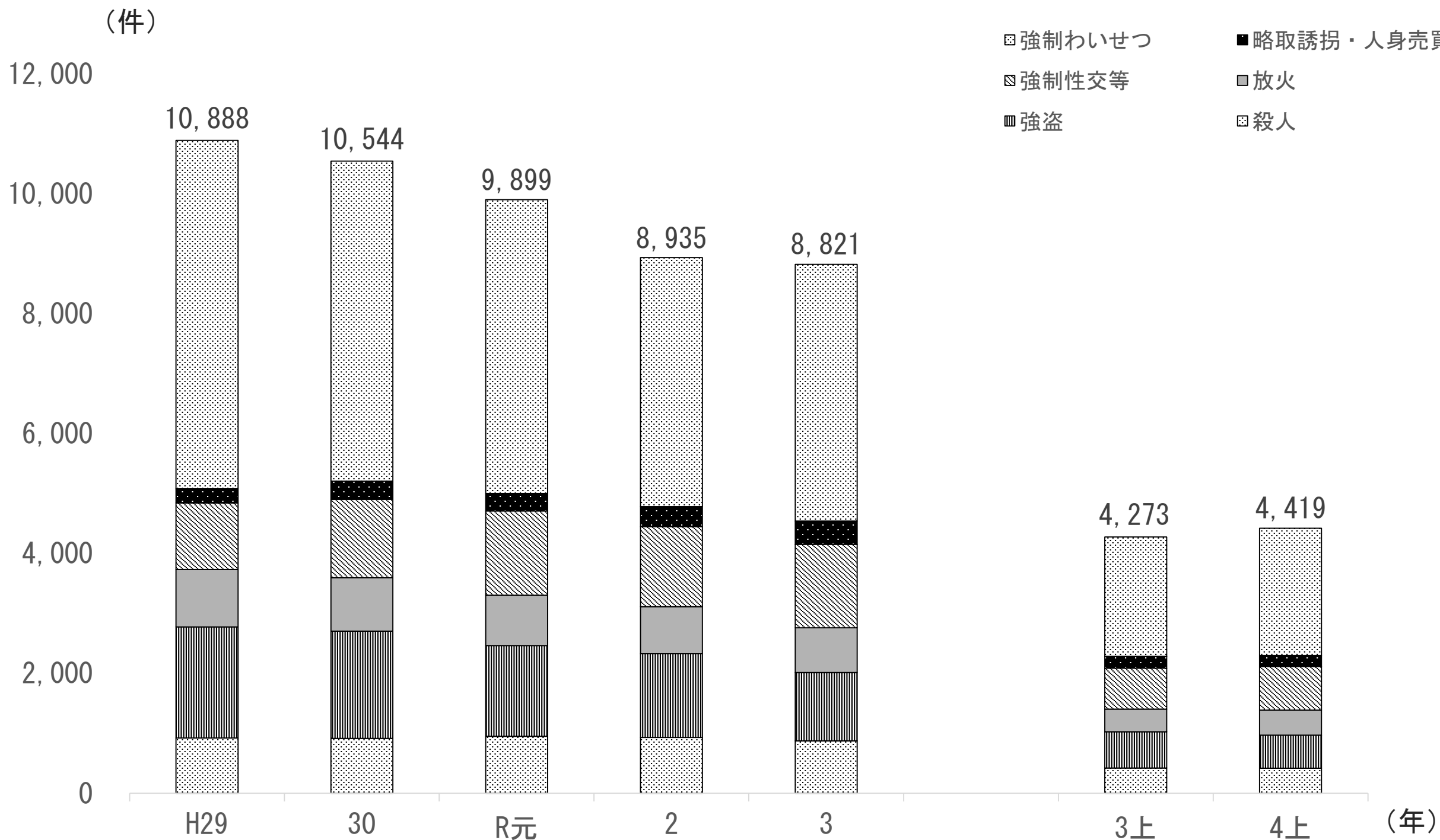
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
□ H30	22,272	19,812	23,604	25,698	28,439	26,169	29,191	29,459	25,937	29,998	25,622	22,174
▨ R元	20,156	18,444	20,344	22,062	24,872	22,456	25,867	24,724	25,994	24,867	21,941	21,229
▩ R2	18,472	16,538	19,154	15,035	14,118	16,198	15,914	17,160	17,435	17,782	16,730	14,732
▤ R3	11,990	12,024	14,667	14,530	14,347	15,299	15,447	15,742	15,485	16,089	16,404	14,278
■ R4	12,420	10,134	13,350	14,311	17,494	17,673						

R4 対前年同期比	3.6%	-15.7%	-9.0%	-1.5%	21.9%	15.5%	-	-	-	-	-	-
--------------	------	--------	-------	-------	-------	-------	---	---	---	---	---	---

令和4年上半期における月別の街頭犯罪の認知件数を見ると、2～4月が対前年同期比で減少している一方で、1・5・6月はそれぞれ3.6%、21.9%、15.5%増加となっている。

重要犯罪の認知件数の推移

(重要犯罪：殺人、強盗、放火、強制性交等、略取誘拐・人身売買、強制わいせつ)

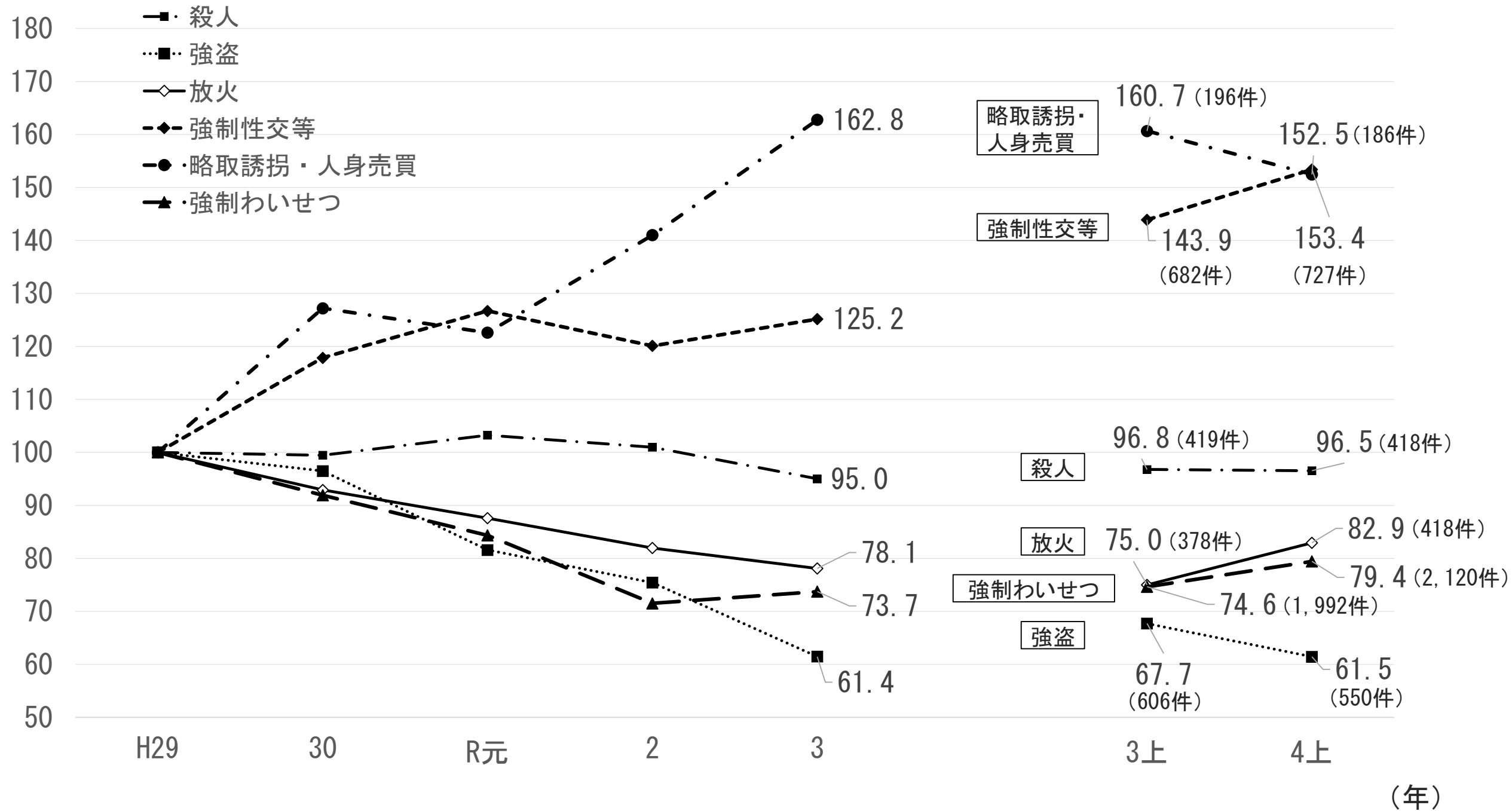


令和4年上半期における重要犯罪の認知件数は4,419件と、前年同期比で3.4%増加した。

重要犯罪の罪種別認知件数(指数)の推移

(重要犯罪：殺人、強盗、放火、強制性交等、略取誘拐・人身売買、強制わいせつ)

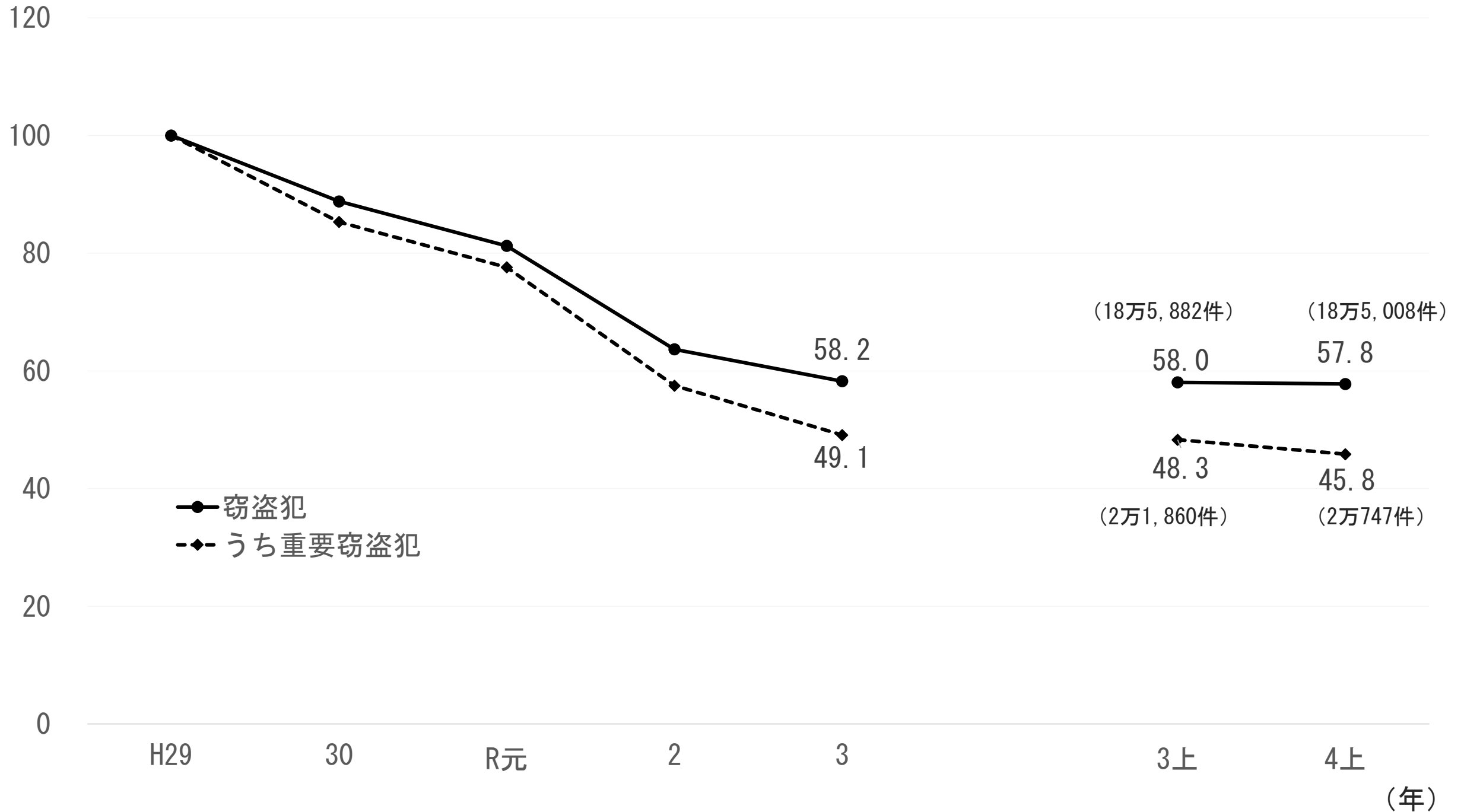
※ 令和3・4年上半期は、平成29年上半期を100とした場合。



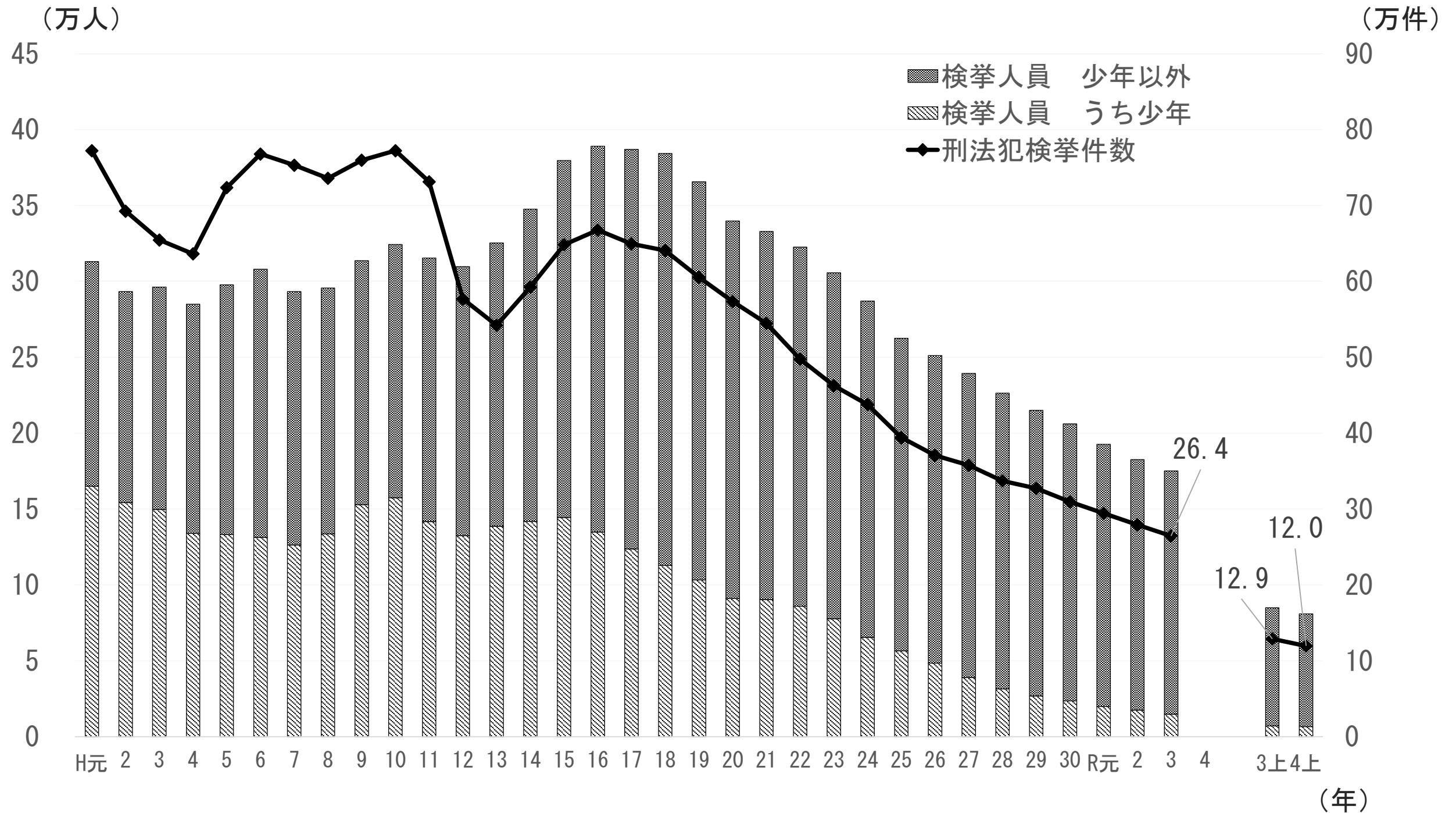
令和4年上半期の重要犯罪の認知件数を罪種別にみると、強制性交等が727件、強制わいせつが2,120件、放火が418件となり、前年同期比でそれぞれ6.6%、6.4%、10.6%増加した。

窃盗犯の認知件数(指数)の推移

(重要窃盗犯：侵入盗、自動車盗、ひったくり及びすり)
 ※ 令和3・4年上半期は、平成29年上半期を100とした場合。

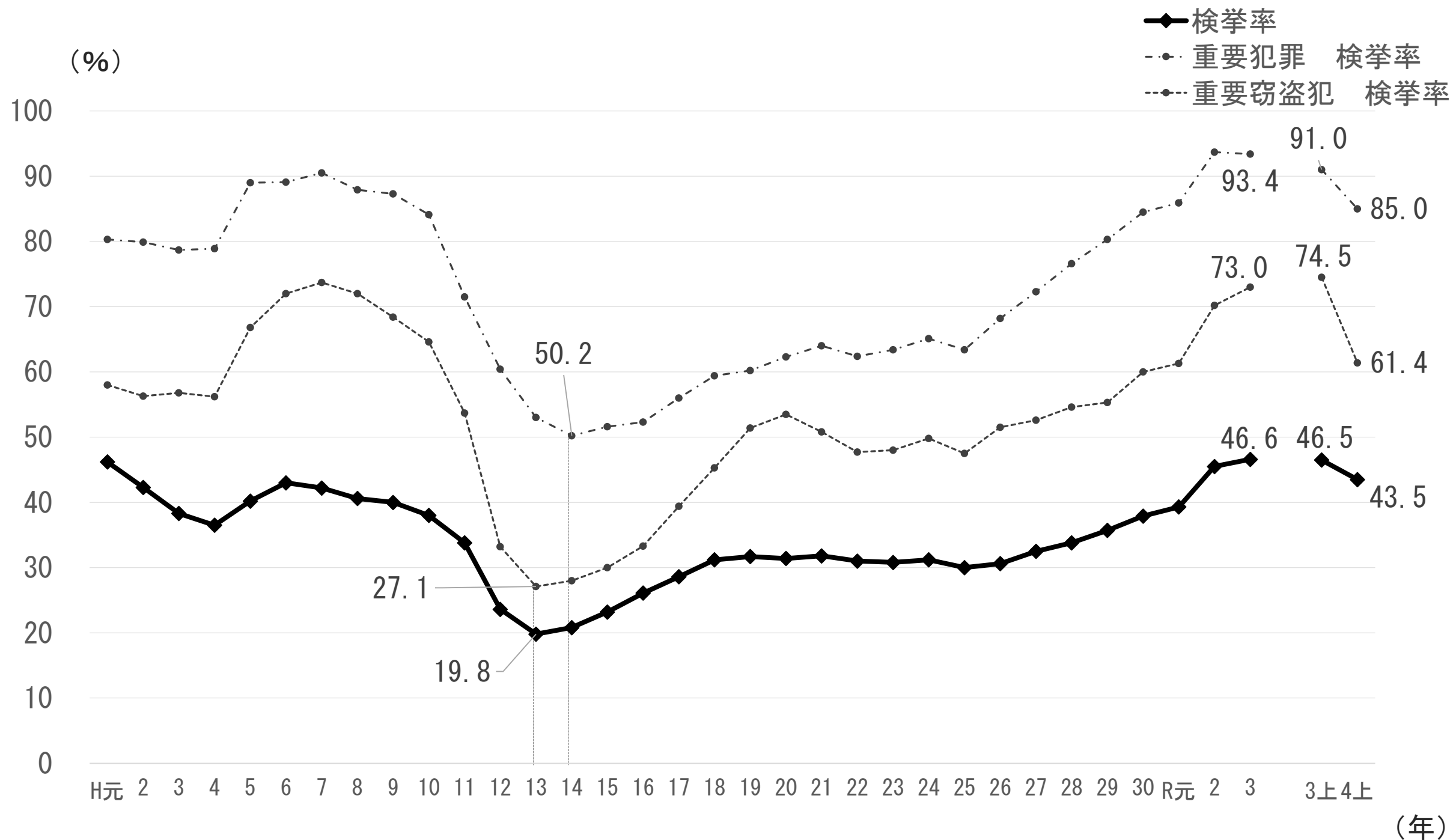


刑法犯認知件数の約7割を占める窃盗犯について、令和4年上半期の認知件数は18万5,008件と、前年同期比で0.5%減少している。重要窃盗犯についても、令和4年上半期の認知件数は2万747件と、前年同期比で5.1%減少している。



令和4年上半期における刑法犯検挙件数は11万9,545件、検挙人員は8万849人で、ともに令和3年の上半期(12万8,853件、8万4,964人)を下回った(それぞれ前年同期比で7.2%、4.8%減少)。少年の検挙人員は6,531人で、検挙人員全体の8.1%となった(令和3年上半期は全体の8.3%)。

刑法犯の検挙率の推移



令和4年上半期における検挙率は、前年同時期より3.0ポイント下落し、43.5%となった。重要犯罪の検挙率、重要窃盗の検挙率は、いずれも前年同時期より下落し、それぞれ85.0%、61.4%となった(それぞれ前年同期比で6.0%、13.1%減少)。